

冒母家姓稱高宮勘兵衛後復本姓。清信叔子鏑木久右衛門某。仕孫嶋豐前云々。とあり。鏑木右衛門の一揆等に彈劾せられたることは、天正の申狀に見ゆ。その文第一巻に出せり。又天正七年卯月上杉景勝の判書あり。

來札披見喜悅、仍而當表備之儀、仲春朔館押詰、彌生廿四日三郎速切腹、其以來仕置如前々二統に申來候條、可被心安候。然而越中初安城凶徒少々相支候間、必初秋出馬案中候。其節急度出陣肝要候。恐々謹言。

卯月廿五日

景 勝 判

鏑木右衛門殿

○大衆免沙走

或は大衆免片原町とも呼べり。按ずるに、沙走の名は、元祿六年の土帳に、大衆免砂はせ。と見ゆ。また馬場之末砂はせとあるは別地なるべし。此の地は用水川の傍にて、雨水の頃沙を馳せ寄する事のありし故に、呼びそめたるにや。又其家建片側のみなり。依りて片原町と呼べるもの也。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、大衆目片原町と記載し、今も片原町の名を本名とす。

○大衆免高岡町

三州志來因概覽頭書に云ふ。瑞龍公致仕領の内、十萬石分返されし時の土町は、今枝民部居第邊なる高岡町なり。又其の後重ねて六萬石分を返されし時の土町は、淺野川沙走邊の高岡町なりと言行録にあり。但し今沙走邊に高岡町の名なしといへり。平次按ずるに、右諸士言行録に載せたる沙走邊の高岡町と載たる沙走を、淺野川大衆免の沙走となしたるは過聞なるべし。元祿六年の土帳に、水野治部右衛門跡三郎左衛門馬場之末砂はせ。とありて、昔は沙走と呼べる地所々にあり。右馬場の末なる沙走は、犀川の馬場邊なるべし。元祿九年地子町肝煎裁許附に、穴町の次に犀川馬場馬乘拜領地高岡町。と載せたり。言行録にいへる沙走邊の高岡町といふは、犀川馬場邊なる高岡町の事にて、そのかみ此の地邊に沙走と呼びたる地ありし故、沙走邊の高岡町とは載せたるなり。今は犀川馬場邊に沙走といふ地名も、高岡町といふ町名も並に絶えて、其の地詳かならず。

○大衆免井波町

此の町は越中井波瑞泉寺の旅屋ありし故、井波町と呼べ

り。但し元祿九年地子町肝煎裁許附等に記載せず。

○越中井波瑞泉寺別院

由來書に云ふ。瑞泉寺十世宣良、慶安二年爲旅屋大衆免町に建立、留守居を置、金澤等門徒百五十戸の法用爲取扱來處、明治十三年七月十五日旅屋の名稱を廢し、瑞泉寺支坊と稱す。同十九年十二月六日日本山より支院と改稱す。

○大衆免牧町

上牧町、中牧町、下牧町の三町とす。此の町名元祿九年地子町肝煎裁許附等にも記載せず。元祿以後に呼びそめたる町名なるべし。

○大衆免淨光寺

東派眞宗道場也。明細帳に云ふ。當寺開基、元和四年三月吞悅創立、寺地卯辰茶屋町之處、屢々類焼に罹り、元文元年轉地出願し、延享三年今之地へ移轉す。とあり。三箇屋版六用集に、淨光寺茶屋町と記載し、今中牧町にあり。

○大衆免平折町

此の町名は元祿九年の地子町肝煎裁許附等に記載せず。元祿以後に呼びそめたる町名なるべし。大衆免中通の末に

て、今も平折町と稱す。

○大衆免西方寺

東派眞宗道場也。明細帳に云ふ。當寺開基は、享祿二年三月宗順と云僧建立す。宗順は加賀國加賀郡藥師谷の内不動寺の住僧なり。眞宗の宗祖大師北國へ下向ありし時、宗意に歸依し、遂に改宗して弟子と成りたり。右宗順文明年中蓮如上人北國下向巡回の頃、西方寺を創立し、後同郡森下村へ移轉す。舊寺地は、河北郡藥師谷不動寺村邊に、于今西方寺山と稱し、遺蹟残り云ふ。寛永十年五月金澤金屋町へ出、此地に寺院造立。夫より百二十餘年金屋町に居住之處、寶曆六年六月大衆免平折町今の地へ移轉す。とあり。按ずるに、三箇屋版の六用集にも、東本願寺道場西方寺金屋町。と記載す。此の書を出版せし頃は、淺野川金屋町にありしゆゑなり。又藥師谷不動寺は、元祿十四年の郷村名義抄に、加賀郡不動寺村、往古此所に不動寺と云大寺有之に付、村名に成候由申傳。とありて、津田鳳卿の蟹谷郷游記に、渡渡橋。左堅田故城。至不動寺尾形谷内磯下云々。と記載するのみにて、不動寺の來歴いまだ詳かならず。